

広報オススメ本 10月 テーマ「踊り」



「たそがれダンサーズ」 桂 望実／著 中央公論新社

家庭内不和、出世コースからの脱落、モテたい・・・様々な悩みを抱える男たちがたどり着いたのはダンススタジオ。通常男女ペアで行う社交ダンスだが、講師の米山が提案したのは、男たち16人で踊るフォーメーションダンスだった。



「戀童夢幻」 木下 昌輝／著 新潮社

「私は芸能の下僕に過ぎませぬ。究極の愛と憎を、この五体と五感をつかって表現したくあります。」
信長、秀吉、家康ら歴史を動かす男たちの元にあらわれる妖しき踊り手加賀邦ノ介。
壮絶な過去を秘めた彼の正体とは・・・。
戦国の世を舞台にした時代小説です。



「黙示録」 池上 永一／著 KADOKAWA

事故により所属していた一座が解散となった了泉。生きるためにもがいていた彼のもとに、王府の踊奉行の石羅吾が現れ、「舞で千年を生きてみせろ」と声をかける。やがて了泉は、ライバル雲胡と出会い、2人は王と対をなす「月しろ」の座を巡って競い合っていく。